

I K G の
旅館経営再生塾
第七十回

観光地の再生に必要な
要件とは？

執筆担当者

孫田 猛

観光地を再生しよう
という面的な事業があ
ちらこちらで進行中だ。
ほとんどが行政の予算
づけで調査・企画を策
定し、次の段階ではこ
れを中長期計画に盛り
込むという流れである。
いくつかの現場に顔
をださせていただいた
が、多くの共通点が見
られる。まず第一に、
報告書作成自体が目的
となり、体裁よく仕上
がってはいるが、絵に
描いたものになっ
てい
ること。第二に、検討
会のメンバーに「当
職」が目立ち、若い人
が極端に少ないこと。
第三に、何事も「それ
はできない」という否
定的な発想からすべて
がスタートしているこ
とがあげられる。

今、観光地は入込み
の大幅な減少、空き店
舗や廃業した旅館がそ
のままの状態に残され、
そぞろ歩きも興ざめす
る町並みになっている
ところもある。また、
内部事情をみれば、狭
い地域内で足の引つ張
り合いが昔から行なわ
れ、あいつが賛成だか
ら、おれは反対」とい
う、いつたい何が大事
かが、どこかに置き忘
れてしまっていること
に出くわす。

観光地衰退の原因は
世の中が変わったにも
かかわらず、顧客に目
を向けずに、狭い村社
会のなかで、ベクトル
があちこちにむいたま
まになつてしまつてい
ることが、原因だとい
うことに気づかないで
いることも多いようだ。

数年前、国の施策で、
「地域資源調査事業」
「特産品開発事業」
「販路開拓事業」の3点セ
ットでのまちおこし
（村おこし）事業が盛
んに行なわれた時代が
あつた。全国至るところ
に似たような地域の

特産品が生まれ、イベ
ントが開催された。そ
の結果、はたしてその
地域は活性化されたで
あろうか？入込み数は
増えたであろうか？こ
れらを行なうことを否
定するものではないが、
何が何でも自分の街を
活性化し、お客様を増
やすんだという共通し
た意気込みがなければ
結果は見えていない。

全員の賛同は不可能
に近い。ならばせめて
いつしよにがんばろう
というメンバーに動き
やすいフィールドを提
供し、その活動の妨害
はしないというしくみ
づくりがとても重要だ。

そして地域をひとつ
の「経営体」ととらえ、
将来地域再生ファンド
を投入する魅力のある
内容のもの、つまり投
資価値のある地域づく
りを目指していく必要
がある。このくらの
危機感を持つて取り組
んでいかなないと、取り
返しのつかない事態に
なってしまう。
活性化のあり方が今
問われている。